



災いを益に変える力

(一)

二〇二四年は、元旦の午後四時十分、能登半島沖にマグニチュード7.6の大地震が発生したことから暗澹たる門出になりました。

石川県によると、十四日午後二時現在、県内の死者は221人(うち「災害関連死者」は13人)。「安否不明者」は24人、重軽傷者は1015人とのこと。当法人でも

今後DWAT(災害派遣福祉チーム Disaster Welfare Assistant Team)やボランティアによる支援を計画していますが、家屋の倒壊、道路の寸断、停電、断水等のニュースを聞くにつけても、一日も早くインフラが復旧し、元の生活に戻れますよう願われます。特に、愛する家族や友人を失った人々の悲しみはいかばかりかと思ひ言葉にな

発行  
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
〒421-0412 静岡県牧之原市  
坂部2151番地2  
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
http://www.yamabatogakuen.jp/  
機関誌代は無料です。

りません。心身が守られますよう、お祈りするばかりです。

(二)

実は当地も、長年にわたって大地震の発生が警告されており、他人事ではありません。

今から四十七年前には、駿河湾から静岡県の内陸部を想定震源域とするマグニチュード8クラスの大規模地震「東海地震」が発生すると言われ、私もこちらへ引越



して来る時には、多くの人から「静岡はいい所だけど、地震があるからねえ」と言われたものです。東海地震は予知可能と言われ、発生前に想定領域内の地盤の一部がゆっくり滑り始める「前兆」を捉えることが肝心とされ、気象庁は二十四時間体制で観測。異常の発見、調査・検討、判定、報告、発表等の任務を、三十五年にもわたって続けたのでした。

幸いにも巨大地震は発生せず、「想定領域内では、東海地震は起らない可能性が高い」との学説も出る中、二〇一七年(平成二九年)から、気象庁は東海地震のみに着目した「地震情報」の発表はやめ、代わりに「南海トラフ地震関連情報」を伝え始めたのでした。

(三)

現在警告されているのは、この「南海トラフ地震」です。東海から九州まで東西およそ七百公里に及ぶ南海トラフに沿って発生するマグニチュード8クラスの巨大地震。これまでに百年から百五十年の

周期で発生してきたので、今回も三十年以内に七割〜八割の確率で起きうる。いや、いつ起きてもおかしくないと言われてます。地震が発生すると、静岡県では約十五万人が犠牲になり、全国で六千万人が被災するとのこと。

当法人の諸施設が散在する牧之原市、島田市、吉田町は、原発から半径30キロ圏内にある「緊急時避難準備区域」です。加えて、駿河湾の西側に位置し、大井川もあるため、巨大地震発生の際には、大津波や原発災害のリスク大です。可能ならば、地震発生の原因を知り、事前に十分準備したいところですが、長年研究してきた学者でさえも、「発生は、単純なメカニズムでは説明できない」「未だに十分には解明されていない」と述懐。

しかし、「それなら、地震予測など当てにならない」と考えるのではなく、専門家の研究や警告、これまでの被災体験などを参考にしながら、できる限りの備えをしていくべきでしょう。最近、皆で「全体的防災訓練」の振り返りをし、厳しい現実に対応した内容になっていないことを共有したので、早急に改善していく予定です。

(四)

新年になって次々に大きな出来事があったため、一年前のことさえはるか昔に思われますが、昨年(二〇二三年)、国内外ではどんな出来事があったか、メディアが伝える国内外十大ニュースの中から、幾つか選んでご紹介しましょう。

〈国内の重大ニュース〉

①自民党最大派閥・安倍派が政治資金パーティー収入の一部を所属議員に還流させ裏金化していた疑惑が浮上。岸田政権を直撃。

②新型コロナウィルス、「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行。

③東電福島第1原発にたまった、放射性物質トリチウムを含む「処理水」の海洋放出が始まる。原発事故で溶け落ちた核燃料(燃料デブリ)冷却等で生じた汚染水は、

国の安全基準未満になるよう大量の海水で薄められ、三〇年位かけて約134万トン全てを放出予定(今回は三回)。中国やロシアは猛反発し、日本産水産物の輸入禁止。

この他、「性加害で、ジャニーズ事務所解体」「賃上げ、物価上昇に追い付かず」「将棋の藤井聡太七冠が、初の八冠制覇」、「列島は猛暑で、平均気温が過去最高」岸田首

相、遊説中に爆発物」「年間出生数は77万759人で、統計開始以来初の80万人割れ」「広島でG7サミット開催」などがありました。

〈海外の重大ニュース〉

①パレスチナ自治区ガザで、イスラム組織ハマスが、イスラエルに大規模な奇襲攻撃、民間人ら約千二百人を殺害、約二百四十人を人質に。イスラエル軍は「ハマス壊滅」を掲げて報復攻撃。パレスチナ側の死者は2万人近くに上った。

②簡単な指示に応じて文章や画像を自動で作る生成AI(人工知能)が、脚光を浴び、急速に普及。その一方、情報流出や誤情報の拡散、著作権侵害など課題も顕在化。

③ロシアによるウクライナ侵攻は二年目になり、戦況は膠着化、欧米諸国に、やや「支援疲れ」。

この他「トルコ南部でマグニチュード7.8の地震。約5万7000人が死亡。モロッコでも地震、死者数は約2900人」「大谷MVP、ドジャース移籍」「中国の習金平体制で、人事・経済に異変(相次ぐ高官の解任/不動産不況など景気後退)」「異常気象により各地で災害(ハワイ・マウイ島の山火事/リビア東部、暴風雨で二つのダムが決壊し推計1万人

超の死者・行方不明者)」「トランプ前大統領、虚偽記載の罪で起訴される。その後、国防機密持ち出し等、三つの刑事事件でも起訴」「北朝鮮が軍事偵察衛星発射」「WHOがコロナ緊急事態解除」などがありました。

(五)

二十年前になりますが、高齢になられた牧師先生が、「もう、こんな自己中心的な世界に生きるのはいらざりやう。早く、あちらの世界に行きたい」と言われ、びっくりしたことがあります。その後、年々、異常気象や紛争などが頻発するようになり、世界の分断や自己中心性はさらに色濃くなったようにさえ思えます。新年(二〇二四年)も秩序を無視した行動や争いが多く見られるのかもしれないが、一方では、平和や対話のため努力している人々も多いこと、また、私たちの周囲には、善意の人々が多いことに希望を抱かされます。

この二月から「ワークセンターやまばと」のお菓子が、東名吉田インター《下り》の売店で販売されることになったのですが、それも、親切な人々との出会いから実現したことでした。

きっかけは、昨秋、同作業所に

ハチの巣が見つかり、Aさんに駆除をお願いしたことでした。スズメバチの駆除さえできる彼女は、難なく仕事を達成。そのお礼に同作業所のお菓子「フィナンシェ」をプレゼントしたところ、「おいしい」ということで店長にも配り、この店長様が障碍者の社会参加や活躍を願っていた方だったので、「インターの売店で販売を」という流れになったのでした。

善意の人々との出会いのおかげで、厄介なハチの巣が喜ばしい結果に実ったことを感謝しています。災いを転じて福となすもの、それはやはり、互いに助け合うポジティブな姿勢ではないかと思えます。衝撃的なスタートをした二〇二四年ですが、全てを益に変えてくださる神を仰いで、助け合って歩んでいきたいと願うことです。

〈理事長〉長沢道子



## 「二〇一五〜二〇二二夏の反戦朗読会」を終えて

市川 節 子

二〇二二年夏、私は八年にわたる反戦のための朗読会を完了しました。

朗読したものは、広島原爆投下直後の惨状を、当時瀬戸内海の豊島で代用教員をしておられた奥田貞子さんが書かれた手記です。原爆投下の報を受けて、翌日、島が緊急に用意した船で広島に渡りました。そこで、出征中のお兄さんの子供たちを探して歩いたので、多くの子供たちの様子をつぶさに見たのです。

被害の有様はあまりにひどく、奥田さんは、宿であった叔父様の家に帰ると、その日に観た子供たちの様子をつぶさに書かないではおれず書き留めました。そして、終戦後、勤務していた山形の独立学園で生徒に向けて読まれ、ある生徒さんの父上、新潟の「野の花文庫」の真壁五郎先生のお力で印刷され出版される機会を得たのです。

二〇一〇年頃、東京女学館大学の教職を定年退職し、母の介護のために新潟に帰っていた私は、その初版本の冊子を一冊、「新潟聖書研究会」代表の山口賢一先生からいただき、

読んで涙が止まらず、朗読させてほしいとお願ひしました。奥田さんがすでに亡くなっておられると知り一旦はあきらめたのですが、すぐに、

山口先生が、奥田さんもおよろこびになると朗読に賛成して下さい、私は、山形県叶水に在る「キリスト教独立学園」の納骨堂に収められた奥田さんにお許しを頂きにまいりました。無鉄砲な私を案じて山口先生もご同行くださり、今も続く独立学園の地で、学園の歴史に生きる、奥田さんその他のキリスト者の方々、わけても、創立当時から校長を勤められた故鈴木すけ美先生の、キリスト者としての理念・信条を、鈴木先生のお嬢様の今野和子様から伺うことができましたのです。私にとつて、実に貴重な旅でした。

私は、幼い時、家に仏壇と神棚がありましたから、毎晩、神さまと、仏さまにお祈りをするようになっており、その後、近くに出来た小さな教会の影響で、イエス様にもお祈りするようになっていきましたが、訪問當時は新潟聖書研究会に入れていた

だいたばかりでした。

キリスト教の教えを守り、会への参加を誘って下さった津田塾大学の後輩井上理恵子さんと山口先生のご厚意は、今思えば私の人生を変えたのですが、キリスト者としての私は未だ自覚なく、ただただ奥田先生の遺志を受け止めて、長年教職に在った人間らしく、とにかく、戦争はいけない、人殺しはいけない、子供を殺してはいけないとの一念で読ませていただいたのでした。

第一朗読会は、二〇一五年八月十五日。当時聖書研究会が集会を持っていた新潟弥彦線小針駅前「葡萄の木」で開催。東京からも友人が駆けつけて下さり、出席者は、六十名を超えました。私自身を含め、驚かなかつた方はありません。私と膝を突き合わせるように最前列の方々がおられる、ぎゅうぎゅう詰めの部屋で、私は、「戦争さえなかつたら」と、「待っていた兄と妹」の二編を読ませていただきました。皆さん、シーンとして聞いて下さったのを忘れることはありません。コロナ感染前のことですから、こんなに入場者がおられても平気だったのでした。

それから毎年、コロナ感染拡大の二〇二〇年、二一年は、極端な人数制限をし、それ迄、希望される方々

とは話し合いの場になるようにと昼食会をしておりましたが、それは止めて、それでも、会を持ちました。二〇二〇年は九名ご参加、二〇二一年は十五人の入場制限にて受け付け、朗読は常の二章を一章に減らして「今もあの時のことを」と題された章だけを、最終回にふさわしい章と考え、読ませていただきました。

そして、二〇二二年、第八回最終回です。コロナ感染がほぼ落ち着いたとはいえ、感染防止のために、新潟市民会館の多目的ホールをお借りしました。広すぎるくらいの会場ですが、出席者七十三名の皆様に安心して席についていただけました。

まず、最終回にふさわしく、会の中で最初に山口先生より平和祈念講演をいただき、ついで、「八歳の少年タダシ君」「戦争中のチカちゃんという三才の子供と私の生活の一部を聞いて下さい」の二章を読みました。最後に、この冊子のタイトルとして奥田さんが選ばれた「ほの暗い灯心を消すことなく」が由来するイザヤ書の一節を読ませていただき、会を締めくくりました。

山口先生はじめ支援してくださった多くの友人の皆様に感謝し、平和を祈念いたします。

### 「相寿園」のたからもの

相寿園 松田正幸

相寿園は、牧之原市相良地区にある養護老人ホームです。環境上の理由や経済的理由等々のために住み慣れた地域で生活できなくなった方々が入居されています。

部屋にこもりがちな方や運動不足が心配されるご利用者が多いため、天気の良い日は、建物の回りを散歩します。自然環境豊かな立地、そして広い敷地の相寿園です。建物一周でも三〇〇m近くは歩くことになりました。そして最後は花壇の前で参加者全員で記念撮影。

実は二年前前、白ゆり会(ご利用者の自治会)の役員の方に相談し



て「相寿園を花いっぱい園にしましょう」と決めて、花を咲かせる植木15種類の植付けを利用者の方々と

一緒(ほとんどは利用者の方々でしたが…)に行いました。紅梅、白梅、モクレン、ロウバイ、イチヨウ、オデマリ、皇帝ダリア等々です。それが二〇二三年の初めころから咲き

だしました。一方、グリーンバンクからの花の種や苗も毎年配布をしていただき、これも無駄なく花を咲かせています。

もう一つ今の相寿園の環境整備に欠かせないご利用者の方がいます。建物周辺を覆いつくす雑草や雑木を黙々と手作業で刈り取ってくれている方です。今では相寿園の回りは雑草がなく見事に整備され、その時々

の花に囲まれています。実のところ私も含め職員はほとんど携わっていません。ご利用者の方々の日々の努力、管理のおかげでこの花の園は出来上がっているのです。施設長としては感謝で一杯です。どうぞこの愛すべき相寿園で皆さんと一緒にいつまでも元気に過ごしていただきたいと祈るばかりです。

(施設長)

### 法人全体防災研修をして

垂穂寮 田中英輝

十二月八日、坂部区民センターで県立大学短期大学鈴木俊文先生を講師に迎えて、BCPの質を高める災害対応研修及び十一月の法人全体防災訓練に対しての振り返り(演習)をおこないました。

前半の研修は講義で、災害訓練には次の三つの段階があることを学びました。

訓練レベル1: 初動対応II行動計画・施設内外避難経路のマニユアル化の実行

訓練レベル2: 災害種類に対しての施設内外の危険ゾーン・安全ゾーンを決めた上での避難訓練(水平・垂直避難・施設外避難)

訓練レベル3: 被災から復旧までの計画訓練及び備蓄品を使用した業務訓練をして改善見直し。

後半は十一月の防災訓練の振り返りで、グループごとに話し合いました。今までの防災訓練では「地震です、火事が起きました。御利用者の避難をしましょう。」とアナウンスをし、

避難が終わったら点呼をして異状がなければ訓練終了でしたが、質の高いBCP計画を立てるためには、避

難するにしても施設が置かれている

環境について、例えば土砂災害区域や津波水害が想定されていないかなど様々な情報を取り入れて計画を作らなければならぬ。水平・垂直避難するのには何分かかるか、通所御利用者の迎えに何分かかるか? 避難場所

は安全ゾーンか? 応援職員は事業所まで何分かかるか? 等を計画しなければいけない。このような視点から

考えると、現在の法人全体の防災体制は、訓練レベル1の計画に留まっていることがわかりました。

いつ巨大地震が来るかもしれないこの頃、万全な準備をする必要があると実感しました。被災時想定をした現実的な訓練をおこなわなければ御利用者の命を守る事は到底難しいと思われま

す。断水・電力停止などの対策も立て、訓練を何度もおこな

たいと改めて考えています。

(副主任生活支援員)



## 【やまばとに期待すること】(アンケート結果の報告)

2022年度より「地域共生社会に貢献する法人」という目的で、中長期計画を策定中です。計画の優先順位などを知るため、ご利用者ご家族の皆様へアンケート調査を実施させていただきました。集計結果を、一部抜粋して、ご報告します。

**1 回答者** 回収件数376件、その8割は家族・親族(母親32.9%、父親5.4%、兄弟姉妹15.1%、子ども15.6%、他)、本人17.8%、後見人3%。回答者の居住地は、8割が事業所所在市町(牧之原市、島田市、吉田町)。

### 2 施設の日課や支援内容に対する評価

376件中、大変良い、良いが8割以上でしたが、一部、支援内容への疑問や要望もいただきました。

「本当に職員の皆様には常に頭が下がる思いです」「信頼しているので、頑張ってください」「本人の希望に添った支援をして下さっている」「本人が喜んで通えています」/「職員が少ない事はサービスの低下につながっている」「日中の過ごし方等、部屋の様子は気にもなります」「家族だよりの写真に笑顔が少なく、無表情の顔が多すぎる。支援内容の詳細がわからない」「いつ面会しても、ただ床に転ばされているだけで、生活に何もメリハリがない」など

改善してほしいこと

「物を送った時にTELは欲しい」「福利厚生を厚くして、コンディション良く働いて頂き、十分な職員数の維持に努めて頂ければと存じます」「本人へ言いたいことを遠回しにいうのではなく直接言ってほしい」など

### 3 ご利用者に対する職員の姿勢 364件中、たいへん良い、良いが8割以上。

「面会に行った時も、細かい配慮をして頂いている様子がよくわかりありがたい」「支援員の皆さん声かけがとても優しい」「支援や介護の講習や勉強会などを行い、ブラッシュアップに努めて頂いて心強く思います。」「先生方の少ない中でよく目を配っていると思います。」「上から目線ではなく、対等に接してくれている(さんづけ)」/「車いす利用者もいる中、移動が多いので、男性職員が必要だと思います」/「利用者は、あなたの家族でも友達でもありません。『尊重されるべき人』です」など

ご利用者への対応に関して、改善してほしいこと

「大声での笑いや、回りを気にせず話す言葉の大きさが、気になります。」「仕事をていねいにおしえてほしい」「怪我等への対応に迅速性が欠ける、優先順位を考えた行動を」「ベッドでの生活で弊害が心配、理学療法士の方の施術を」「wifi(ipadで調べたい)を利用者にも使わせてほしい」「体温37℃即帰宅にはしないで欲しい。共働きで迎えに行くのが難しい」「お給料を頂いている以上は、納得できる対応をしてほしい」「職員は十分な休養を(給与面も)とる事も利用者への対応に影響ある」など

### 4 ご家族(保護者や後見人など)に対する職員の姿勢 308件中、たいへん良い、良い8割以上。

お忙しい中いつもありがとうございます」/「言葉遣いなど、もう少し丁寧な対応を。外部から、法人はどうみられているか意識する事もコミュニケーション能力のひとつではないか」「Facebookやインスタなどで、日中の活動の様子を知りたい」など

ご家族への対応に関して、改善してほしいこと

「もう少し自分の立場を考えてもらいたい」「子供たちの下着や服等の買い足しやチェック等実施の機会を設けてもらうか、保護者への要請をして頂きたい」「(担当の方から)写真付きの近況報告が知りたい」など

### 5 地域社会との連携で、力を入れてほしいこと

①行政関係者・民生委員・地域住民たちとの信頼関係(113件)、②地域交流(例えば、お祭りへの参加、行事への招待、施設機能の開放)(92件)、③社会的弱者への支援(90件)、④ボランティアの活用(75件)、⑤家族への支援(64件)、⑥制度外の福祉的ニーズに対する支援(52件)⑦社会参加(例えば、地域の草刈りへの参加)(45件)、その他:「地域の方やボランティアを巻き込んだコミュニティガーデン」「親がみれないときに対応してくれる場所、GH等」「地域の方がふらっと立ち寄れる場、参加できる場がほしい」「災害時の対応」「小学校との交流の再開」「本人・家族とも年を取っていくので、退所後の支援等の情報を知りたい」

### 6 災害等、緊急事態の対応や備えに関して心配なこと(320件)。

①安否確認(152件):「緊急時の連絡手段、情報交換できるか?」「『LINE』の一斉送信や『きずなネット』等を希望」「どこに避難しているのか?事業所に居る時災害があった場合の連絡は?迎えにいくのか?いけない場合は?」「引き取り時の道路状況」。②利用事業所の場所や避難内容:「施設の立地場所が心配」「災害の危険性やそれに対する対応計画」「日頃の訓練、避難計画は万全か?防災設備、ヘルメットなど防災用品の備蓄状況」「通勤・通所時に災害があったときはどうなる?」「出来ればマニュアル化」③避難場所:「被災時の居住が心配」「福祉避難所どうなるか」「避難時に避難先での行方不明」「避難所にはプライバシー・居場所がない」「日頃の支援員でない人による支援」など。④支援職員の確保:災害時の人材不足、「家族も応援したいので連絡・情報が欲しい」など。⑤服薬(90件)、⑥食料・衣類の確保:体格にあう服があるか。など。

### 7 こんなサービスがあったらよい(全134件)

①ショートステイサービス(42件):「利用できるところが少ない」「頻繁に使用したい」「手帳があればすぐ使えるとよい。医療が必要な人でも使えるようにしてほしい」「急な予定がある時はすぐ使えるように」「受給日数をもう少し欲しい」など。②交流の機会、外出や行事の増加(34件):「月1度でもお楽しみ会(食事)、親子昼食会」「オンライン面会」、日常の様子や活動での画像を欲しい」など。③相談関係(16件):「何でも相談できる場があるとよい」「何でも相談できる場は欲しいが、その前にもっと職員さんとのつながりが欲しい」など。④送迎・移動支援(12件)⑤GH、入浴、見守り、延長サービス(11件)

